

令和元年度
福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業

喜多方市本村地区実証実験報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト大坪チーム

指導教員 経済学部経営学科 大坪史治

目次

1 はじめに	2
1.1 今年度の活動方針.....	2
1.2 現地活動	3
2 活動紹介.....	8
2.1 食×認知度 = そば同好会	8
2.2 農作物×認知度 = 学園祭における物産展の出店.....	9
2.3 山の斜面×自然×山道 = フットパスツアーの実施.....	10
3 来年度に向けて.....	11
3.1 今年度を踏まえた来年度の見通し	11
3.2 来年度の活動提案.....	11
3.2.1 フットパスコースの整備	
3.2.2 本村ツアーの企画	
3.2.3 そばの栽培	
3.2.4 草加市、都内への出店	
4 結びに	15

1.はじめに

2018年度から「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に参加させていただき、獨協大学大坪チームは今年度で実証実験である二年目を迎えた。同チームは福島県高郷町にある本村地区で活動している。チームメンバーは、猪爪麻衣子（学生代表：フランス語学科 3 年）、窪谷ちひろ（副代表：英語学科 3 年）、清野芽生（フランス語学科 3 年）、宮本圭（国際環境経済学科 2 年）、飯田佳暖（フランス学科 2 年）、岡本凱貴（法律学科 2 年）の 6 名である。今年度、大坪チームは合計 4 回に渡り、現地での活動を行った。

1.1.今年度の活動方針

今年度は、一年目の実態調査を通して分かった本村の魅力と、問題点を掛け合わせるという方針で活動した。本村の魅力と、問題点は以下の図の通りである。

図 1 本村の魅力



図 2 本村の問題点



本村の問題点を魅力と掛け合わせることで弱みを強みにでき、かつ学生ができる範囲の活動を考えた結果、認知度、山の斜面という問題点をピックアップし、これらを魅力と掛け合わせる活動を行う方針を立てた。活動内容は 1.2. で詳しく説明する。

- ① 認知度×食 = そば同好会
- ② 認知度×農作物 = 学園祭の出店
- ③ 山の斜面×自然×山道 = フットパスツアーを実施

1.2 現地活動

大坪チームは 4 回の現地活動を行ってきた。詳しい活動スケジュール、活動内容は以下の通りである。

第 1 弾 2019 年 8 月 31 日(水)・9 月 1 日(木) 活動スケジュール

日付	時間	活動内容
8 月 30 日	22:20	東京駅 出発
8 月 31 日	05:20	会津若松駅 到着
	06:45	会津若松駅出発
	07:10	喜多方駅 到着 喜多方市内散策、朝ラーメン
	08:30	喜多方市役所訪問 出発
	09:00	本村到着
	09:10	自己紹介
	09:20 12:00	本年度の打ち合わせ お昼、後片付け
	13:30	フットパスマップ原案作成作業
	16:00	ふれあいランド高郷
	17:30	集会所到着
	17:30	夕食交流会準備
	18:00	夕食交流会
	20:00	片付け・ミーティング
	22:00	就寝
9 月 1 日	6:00	起床
	7:00	朝食
	8:00	活動：畑準備作業
	12:00	昼食
	13:30	フットパスマップ原案作成作業
	16:00	本村 出発
	17:00	会津若松駅 出発
	22:20	東京駅南八重洲口 着

第 1 弾は、今年度最初の活動で、今年度から加わったメンバーもいたので改めて自己紹介から入り、喜多方市役所農村振興課の猪俣様、福島県地域振興課の藤本様との顔合わせも行った。また、本村のフットパスコースを生かしたフットパスモニターツアーに向けて、フットパスマップを作成するにあたり、デザイン、盛り込む内容を地区の人と一緒に考え、意見のすり合わせを行った。その後、実際にフットパスコースを歩き、コースの視察も行った。

翌日は、11月に行われる獨協大学の学園祭である雄飛祭に出店用の農産物を栽培するため、物江区長が用意してくださった畑を地区の人と学生で耕し、野菜の種まきを行った。野菜の種類は、白菜、大根である。作業中は、地区の方の農機具の慣れた扱いに圧倒された。一つ一つの動作を教わりながら一緒に作業を行った。農作業後は、再びフットパスモニターツアーの話し合い、そして雄飛祭出店に向けて野菜以外の商品も考えた。この話し合いで、栽培する野菜以外に、わらび缶、エコ米の販売をすることが決定した。わらび缶とエコ米には新しいラベルの作成をすることで意見が合致した。

第2弾 2019年9月13日（土）・14日（日）活動スケジュール

日付	時間	活動内容
9月13日	23:50	東京駅 出発
9月14日	06:10	会津若松駅 到着
	06:45	会津若松駅 出発
	07:10	喜多方駅 到着 喜多方市内散策、朝ラーメン
	08:30	喜多方市役所訪問 出発
	09:00	本村到着 本村区長宅に荷物を下ろす
	09:10	本年度の打ち合わせ
	10:00	フットパスコースの散策
	12:00	お昼、後片付け
	13:00	フットパスマップ原案作成
	16:00	入浴
	17:30	本村区長宅到着
	17:30	バーベキュー準備
	18:00	バーベキュー
	20:00	片付け、ミーティング
	22:00	就寝
9月15日	07:00	起床
	07:30	朝食
	08:10	区長宅出発
	08:30	ふれあいランド高郷到着 打ち合わせ
	10:00	棚田ウォーク開始
	13:00	意見交換会、反省会
	16:00	入浴

	18:00	夕食
	20:00	片付け、ミーティング
	22:00	就寝
9月16日	06:00	起床
	07:00	朝食
	08:00	活動：畑準備作業
	12:00	昼食 後片付け
	13:00	フットパスマップ原案作成作業
	15:00	本村 出発
	16:00	会津若松駅 出発
	20:29	バス新宿 着

第2弾を迎えた9月14日は、地区の方と一緒に、雄飛祭に出店する白菜の苗の植え付け、第1弾で植えた大根の間引きを行った。昼食は、母ちゃんそば祭りですそばを食べ、喜多方市長の遠藤 忠一さんにお会いし、ご挨拶をすることができた。夕食は物江区長宅でバーベキューを行い、お酒を交わしながら集落の方の意見を聞くことができた。改めて自分たちがこの活動をやっている意味や自分たちのこの活動に対する思いを振りかえる良い機会となった。

翌日の15日は、フットパスモニターツアーの運営のノウハウの勉強も兼ねて、高郷町が主催する棚田ウォークに参加した。棚田ウォークは、喜多方市高郷町で、美しい棚田を見ながら歩いて、季節ごとに年4回開催される。(2020年度からは年2回)物江区長と喜多方市の地域おこし協力隊の石島来太さんも運営に携わっている。その後は元気塾にて棚田ウォークの反省会を行った。反省会后、来年度のそばの栽培も視野に入れていたので、そば畑の視察を行った。

最終日である16日は、改めてフットパスコースの視察を行った。この視察では、フットパスマップ作成のため、複数のコースを歩き、コースごとに時間、距離の計測、コースの見どころポイントを記録した。視察後、集会所に戻り、コースを振り返り、モニターツアーで歩く3つのコースを決定することができた。

第3弾 2019年10月25日(土)・26日(日) 活動スケジュール

日付	時間	活動内容
10月25日	17:00	新宿駅 出発 ※猪爪のみ
	22:20	東京駅 出発 ※(窪谷、清野)
10月26日	05:20	会津若松駅 到着
	06:45	会津若松駅 出発

	07:10	喜多方駅 到着 喜多方市内散策 朝ラーメン
	08:30	喜多方市役所訪問
	09:00	本村到着
	09:10 12:00	野菜収穫作業 お昼、後片付け
	13:30	雄飛祭で販売するお米の デザイン披露、雄飛祭に 向けて準備
	16:00	ふれあいランド高郷
	17:30	集会所到着
	17:30	夕食交流会準備
	18:00	夕食交流会
	20:00	片付け・ミーティング
	22:00	就寝
10月27日	6:00	起床
	7:00	朝食
	8:00	フットパスマップ原案披露
	12:00	昼食（そばうち） 後片付け
	13:30	11月の収穫感謝祭企画 練り、打ち合わせ
	16:00	本村 出発
	17:00	会津若松駅 出発
	22:20	東京駅南八重洲口 着

10月26日は、11月に迫った雄飛祭の農産物出店の準備をした。販売する野菜の手入れや、実際に学生が収穫して試食も行った。また、エコ米とわらび缶に貼るラベルを2種類作成し、地区の人にお披露目した。また、地区の人と一緒に売るので、値段設定や売り方の確認をした。

翌日27日は、フットパスモニターツアーに向けての準備をした。学生が作成したフットパスマップを実際に地区の方に見てもらい、修正点がないか確認していただいた。モニターツアーの集客方法も議論し、地域おこし協力隊の石島来太さん、物江区長、そして、学生側のネットワークの計3つのネットワークで参加者を募ることが確定した。

第4弾 2019年11月22日(土)・23日(日) 活動スケジュール

日付	時間	活動内容
11月22日	22:20	東京駅 出発
11月23日	05:20	会津若松駅 到着
	06:45	会津若松駅 出発
	07:10	喜多方駅 到着 朝ごはんを買う
	08:30	喜多方市役所訪問 出発
	09:00	本村到着
	09:10	そば打ち
	12:00	収穫感謝祭開始
	17:00	入浴
	18:30	本村集会所到着
	19:00	夕食
	21:00	片付け、ミーティング
	22:30	就寝
11月24日	06:00	起床
	07:00	朝食
	09:00	フットパスツアー開始
	12:00	芋煮会 後片付け
	13:30	反省会
	14:30	本村 出発
	16:00	会津若松駅 出発
	20:29	バス新宿 到着

第4弾である11月23日は、本村地区のイベントである収穫感謝祭に参加した。そこで学生は、日ごろお世話になっている地区の方々に、感謝の気持ちをこめてそば打ちをして打ちたてのそばをふるまった。本村にはそば打ち職人が2人いて、本村に行くたび丁寧に学生に教えてくださった。収穫感謝祭のために大学や自宅でも練習を重ねたが、そば打ちはやればやるほど奥が深く、繊細で、難しいものだと痛感させられた。今後さらに練習を重ねて、本村のそばを通して外部の知名度を上げていきたい。

翌日の24日は、フットパスモニターツアーを開催した。参加者は計19名。喜多方市役所職員の方、隣の小土山集落の方、本村住民の方、そして、雄飛祭で本村の野菜を購入した学生が、本村に興味を持ち、フットパスモニターツアーに参加してくださった。

2 活動紹介

2.1 食×認知度 = そば同好会

活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学内イベントに参加 ・収穫感謝祭にて 40 食分振る舞う ・Instagram を開設 ・そば打ち練習 ・同好会設立 ・そば粉を使った新レシピ考案
結果	・認知度向上の第一歩

本村集落の特産物であるそば粉を使い、そば打ちの練習を行った。昨年度の活動で地域の方にご指導を頂き、それを活かすために同好会を設立した。この活動を広めるために Instagram を開設し、練習風景や新しいレシピの開発の様子などを公開した。

また学内で行われた持続可能な社会を考えるイベント「Earth week Dokkyo 2019～summer～」で、そば粉を使用した新しいレシピを考案し、そばピザを配布した。私たちの活動について記したパンフレットも配布し、認知度の向上を計った。

毎年 11 月 23 日に行われる集落の収穫感謝祭において、学生がそばを 40 食分打ち、地域の方々に振る舞った。その際には福島県の新聞社の方がお越しくださり、そば打ちと私たちの活動についての取材を受けた。後日、福島民報と福島民友に私たちの記事が掲載された。(写真 1)

写真 1



2.2.農作物×認知度 = 学園祭における物産展の出店

活動概要	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の学園祭にて集落の野菜と米を販売 ・本村のパンフレットを作成 ・販売した米とわらび缶のラベルをデザイン
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・販売した商品を完売

本村地区に獨協大学実証実験用畑を作り、そこで大根と白菜の栽培を行った。大学の文化祭ではその大根と白菜のほかにお米とわらびを販売した。お米はペットボトルと紙袋で、わらびは缶詰にしてそれぞれ提供した。また、販売したお米の紙袋やペットボトル、わらび缶のラベルを学生がデザインした（写真2）。販売時には学生が作成した本村地区のパンフレットを渡した（写真3）。本村地区の方5名と一緒に販売をし、無事に完売させることができた。学生のみならず草加の地域住民の方と交流しながら販売でき、本村地区を知ってもらおう良い機会になった。

写真2 学生がデザインしたラベル



写真3 販売時に配布したパンフレット

2.3. 山の斜面×自然×山道 = フットパスツアーを実施

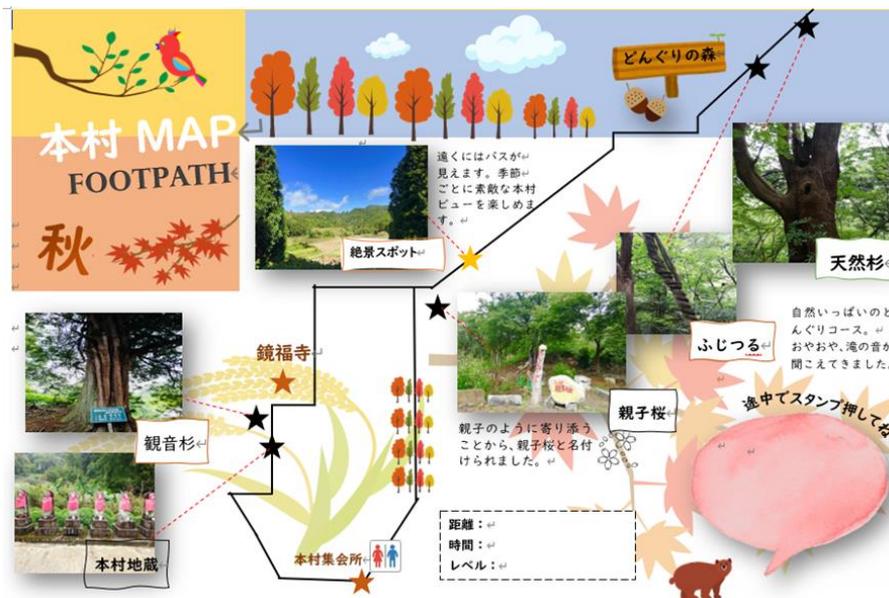
活動概要	<ul style="list-style-type: none">・フットパスツアーの企画・フットパスマップ作成・ツアー後には芋煮会を実施、意見交換
結果	<ul style="list-style-type: none">・芋煮会を通して課題点や反省点が見つかった。・文化祭で本村の特産物を購入した学生がツアーに参加。

第 4 弾実証実験にてフットパスツアーを開催した。学生は本村地区の方々や地域おこし協力隊の方の協力のもと、フットパスツアーの企画を行った。ツアーの参加者は学生を含む 19 名で、近隣集落の方や喜多方市役所の方々も参加して下さった。また、事前に行ったフットパスコースの視察を基に、本村の魅力や地域資源を可視化するために学生がフットパスマップを作成した。ツアーの終了後には芋煮会を開催し、参加者の方々とツアーについて課題点や反省点を話し合った。また、大学の文化祭で野菜を購入した学生が本村地区に興味を持ち、このツアーに参加した。フットパスをツアー化することでこのように本村地区に直接足を運んでもらう場を設けられた。

写真 4 芋煮会での意見交換会の様子



写真 5 学生がデザインしたフットパスマップ



3. 来年度に向けて

3.1 今年度を踏まえた来年度の見通し

今年度は、一年目よりも地区の方との交流を大切にしながら、そば打ち、学園祭の出店、フットパスツアーの実施を行った。来年度は、これらの活動を継続し、グレードアップさせ、新しい取り組みにも挑戦していきたい。

3.2 来年度の活動提案

3.2.1 フットパスコースの整備

企画の概要	<ul style="list-style-type: none"> 看板のデザインを考え、作成、設置する。 コースの道案内となるかかしを作成し、設置する。
具体案	<ul style="list-style-type: none"> 絵の得意な地区の方と協力して、地区の方をモチーフにしたかかしを作成する。 目を引くような看板のデザイン（顔出し看板など）を作り、フットパスコースの休憩地点に設置する。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人も自分の得意分野を生かすことができる。 フットパスコースがより充実したものになり、外部の人を呼べる体制を作ることができる。

「フットパス」とは、イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】』のことです（日本フットパス協会より）。近年フットパスは日本では地域の魅力と資源を再発見する手立てとして注目されている。本村地区でも美しい棚田や四季の魅力を多くの人に感じてもらうため、コースを整備している。今年度は本村地

区のフットパスコースをより充実したものとするため、看板とかかしの設置を行う。看板とかかしのデザインを決め設置まで行おうと考えている。そこで本村地区の絵が得意な方とコラボし、顔出し看板なども置き、他のフットパスコースと差別化を図る。また本村地区では鳥獣被害が深刻である。その打開策として地区の方をモチーフにした案山子を設置する。看板と既存のマップを活用し、フットパスを利用した活性化を目指す。

3.2.2 本村ツアーの企画

企画の概要	・本村モニターツアーの計画
具体案	・本村でフットパス+αのモニターツアーを企画し実施する。 ① フットパス+お花見+新歓 ② フットパス+そば打ち ③フットパス+子供キャンプ 以上のような本村を満喫できる「本村モニターツアー」を年に数回実施する。
期待される効果	・本村の関係人口の増加が見込める。

本村地区の魅力を伝えるためにツアーを実施する。企画と運営を地区の方と一緒にいき、本村地区のリーダーを増やすべく継続性を大切にする。ツアーは以下の三種類である。

① フットパス+お花見

春のフットパス散策と本村地区で集落の方々と一緒に花見を行う。この際、大学からは本事業に興味がある学生を勧誘し大坪チームのメンバー募集も行う。

② フットパス+そば打ち

冬の雪山フットパス散策と蕎麦打ち体験を行う。蕎麦が打てる学生と集落の方がそば打ち教室を開き、フットパス後は本村の蕎麦を堪能していただく。

③フットパス+子供キャンプ

夏のフットパス散策を行い、小学生向けの子供キャンプを実施。子供キャンプでは、自然体験を中心に、子供たちの豊かな心をはぐくむ。喜多方市の NPO 法人やフットパスの専門家に協力していただき進めていく。

3.2.3 そばの栽培

企画の概要	・本村地区内の耕作放棄地を利用し学生たちでそばを栽培する。 ・その畑で収穫したそばはそば同好会で使用する。
具体案	・そば同好会でのそば打ちやそば粉使用の新たなレシピ作りに使用する。
期待される効果	・そば栽培はあまり手入れが必要ではないため無理なく続けることができる。 ・ブランド化を視野に入れることができる。

本村地区には耕作放棄地があるが、それを利用してそば栽培を行うことを提案する。獨協畑同様、地区の住民の方々と協力して畑を作り、そこで採れたそばはそば打ちやそば粉を使った新たなレシピ作りに使用し、地区の方々に振る舞いたいと考えている。またそばは他の農作物と比べるとあまり手入れを必要としないため、無理なく栽培を続けることができると考える。続けられるからこそ、ブランド化も視野に入れることも可能であると考え。

3.2.4 草加市、都内への出店

企画の概要	・大学外のイベントに参加し、本村地区の農作物を販売する。
具体案	・獨協大学がある草加市で開催される「草加ふささら祭り」や、東京都内で開催される「ふくしまフェスタ」に参加し、本村地区の特産物である野菜や米の販売を行う。 ・本村地区のパンフレットの配布も行う。
期待される効果	・本村地区のPRと知名度アップを図る。

今年度は大学祭に物産展を出店し、販売した商品を全て売り切ることができた。学内イベントということもあり、「福島県集落復興支援事業」を認知してくださっていた方、応援してくださる方、メンバーの知り合いがいる中での出店であり、そして販売価格が非常に安かったことが完売した理由であると分析した。そこで私たちは、来年度は知り合いのいない環境、私たちの活動の認知が無い場で物産展を出店し、どれぐらい商品が売れるかを調査すること、そしてさらに本村地区のPR規模を広げて知名度を上げることを目的として、学外のイベントに参加することを提案する。

・草加ふささら祭りへの参加

草加ふささら祭りは、「共に創ろう！快適都市、草加。」の実現を目的とし、草加市に新たな賑わいをもたらすべく「賑わいとイベントによる地域活性」をモットーに掲げた草加市の一大イベントである。市民パレードやよさこい、物産展など様々なイベントが行われ、例年来場者数20万人を誇る。多くの人に本村地区をアピールすることができる場であり、また販売規模の拡大を図ることができると考える。

・ふくしまフェスタへの参加

ふくしまフェスタは東京をはじめとする全国各地で行われており、福島県の特産物を販売や、福島県の復興の現状や魅力を伝えることを目的としたイベントである。

私たちは本村地区の関係人口つまりピーターを増やすことを目標としており、目標達成の第一歩としてまず地区の知名度を上げることに加えて魅力を伝えることができる活動をしたいと考えている。ふくしまフェスタはまさにそれを目的とするイベントであり、物産展を通して多くの人と交流をし、魅力を伝えたい。

4.結びに

今年度は 2 年目に入り、実証実験という形で事業を行った。地域の方々との交流を初めて 2 年、1 年目には分からなかったことや、新しい課題が見えてきたりと、実りの多い一年となった。

まず、一年目と比較し、一番大きな変化は地域の方々との距離だ。交流を重ねていくうちに今まで知らなかった地域の方の熱い思いや、集落内の人間関係などこれから事業を進めていく上で重要なことを話して下さるようになり、話して下さったことに対する嬉しさと私たちが行っているこの事業の責任や意味を改めて自覚することができた。

このように、本年度の活動での一番の進歩は「学生と集落の皆さん」という関係性ではなく、「一人ひとり、ヒトとヒト」という関係が構築することができた。そしてそれがこの活動を行っていく中でとても大切なことだということにも気づく機会にもなった。

また今後、継続的な活動ができるように改善すべきことや新しい試みについても議論ができた。金銭面や企画の観点から、変化・工夫が必要な点が多く挙げられるがその中の一つに地域の方と学生のバランスがある。今年度の活動の中で事業の在り方を見直す機会があり、学生よがりではなく学生と地域の皆さんの協力で成り立たせることの重要性を感じた。学生と、地域の方々双方に主体性が求められる。このため、来年度ではバランスを考えた取り組み方をしていきたいと考えている。直接会える時間を有意義に使い、話し合いを重ね、このテーマに沿った企画を提案、実行していきたい。また今までやってきた取り組みは継続しつつ、パワーアップさせながら新しいことにも挑戦していきたい。

結びに、一年間この事業に協力して下さった福島県企画部地域振興課の藤本様、喜多方市農村振興課の猪俣様、田中様を始め、学生の活動に支援して下さったすべての方に深謝致します。